

平成22年度当初予算案成立

当初予算案及び関連議案は、会派代表質疑のあと、2月27日に予算特別委員会が設置され、付託されました。

予算特別委員会の委員長に池田りんたろう議員（北区）が就任。3月1日から3つの分科会に分かれ、各局ごとの審査を7日間にわたり審議しました。

また3月11日にさきもと祐治議員（須磨区）が総括質疑に立ちました。

予算特別委員会

委員長に池田りんたろう議員



▲総括質疑に立つさきもと祐治議員（須磨区）



▲予算特別委員会委員長池田りんたろう議員（北区）

総括質疑 さきもと祐治議員

市民参画推進局長が広報官兼務 広報専門官に民間人材を公募

Q わが会派は、市長直属の広報官の新設を提言した。広報官の役割をどういう位置づけ、どう使おうとしているのか。

A 市民参画推進局長が広報官を兼務し、市長が不在の時の対応や定例会見終了後、必要に応じて、正しく分かりやすくマスコミにお伝えする役割も持っていただく。

また市長不在時には危機管理監が業務を代行しているが、広報官もそのように代行していきたい。

広報専門官は民間人材を公募する。

「光の都」神戸を創造し、国内外に発信を

Q 光を活用した世界一のデザイン都市にしてはどうか。また、光の景観に関してフランスのリヨン市を中心に世界で60都市が加盟する「LUCI（ルーシー）」という協議会がある。加盟を検討してはどうか。

A 「LUCI」についても一度調べてみる。神戸スウィング・オブ・ライツは好評であったが、別の試みを現在は検討中の段階だ。



昨年好評だった、神戸スウィング・オブ・ライツ

学校支援地域本部は市単独でも

Q 「次世代のこどもを育む市民会議」で議論され抽出できた課題の解決には予算化していくこと、また学校支援地域本部は全中学校区で実施することが大事だと考えるがどうか。

A 市民会議は市民とともに進める。神戸では子どもたちが健やかに育っていると他都市から評価されるようなものになりたい。

学校支援地域本部は、国の補助制度がなくなっても、市単独でもやっていきたい。

定例市会で可決された意見書

議員提出議案を可決しました。

- ・加工食品の原料原産地の表示義務化や遺伝子組み換え食品の表示義務化など、食品表示制度の抜本改正を求めるもの
- ・ワクチン接種に対する助成制度などの充実を求めるもの
- ・核兵器の廃絶と恒久平和実現を求めるもの
- ・阪神港を国際コンテナ戦略港湾として選定し、国において、重点整備を強く求めるもの

22年度神戸市各会計予算を承認

平成22年度当初予算案は、市民の生活とくらしを守り、いのちを大切に、「市民とつくる安心と明日の元気な神戸」の創造に全力で取り組む矢田市長の強い決意のもとに編成された予算でした。

3期目を迎えた矢田市長には、強いリーダーシップによる市政運営を期待し、平成22年度当初予算案並びに関連議案の合計50議案については要望を付して承認いたしました。

- 神戸空港の運用時間の延長や発着枠の拡大を国に強く働きかけられたい。
- 魅力ある神戸の「食」を活かし神戸をゴールデンルートのゲートウェイに定着されたい。
- 農業への継続した就労など障害者就労支援の充実を図られたい。
- 神戸市民マラソンは国際色豊かなマラソン大会になるよう計画し、スタートとゴールを神戸市内に設定されたい。

そのほか、「次世代のこどもを育む市民会議」、「国際コンテナ戦略港湾」、「光の都」神戸の創造、国内外医療関連企業の誘致、神戸国際メディカルセンター構想への積極的な支援とメディカルツーリズムの受け入れ体制のシステム化についてや、市長の国内外機関等へのトップセールスについてなど10件です。



建設が進む新中央市民病院